# 2023年度プロジェクト研究２


| プロジェクトNo. | テーマカテゴリ | プロジェクト名 | ページ |
|---|---|---|---|
| 1 | 麒麟 | 古民家カフェと郷土料理のフードスケープ（１） | 1 |
| 2 | 麒麟 | 学校の適正規模を考える～学校の小規模化と統廃合～ | 2 |
| 3 | 麒麟 | 鳥取を元気にするイベントをプロデュースする | 3 |
| 4 | 麒麟 | OpenStreetMapによる鳥取ガイドの試み ８　－誰かに教えたい場所－ | 4 |
| 5 | 麒麟 | 森林空間の利用を考える～キャンプ場、遊歩道等による森林サービス産業化に向けて～ | 5 |
| 6 | 麒麟 | 鳥取県の穴場温泉を発見しよう | 6 |
| 7 | 麒麟 | ガーデニングと地域の経営課題 | 7 |
| 8 | 麒麟 | 「〇〇王国、鳥取」を構想する | 8 |
| 9 | 麒麟 | まちなかの国際化を考える | 9 |
| 10 | SDGs | 鳥取市のバリアフリーまちづくりの「いま」と「これから」 | 10 |
| 11 | SDGs | 「陸の豊かさ」に関わるSDGsターゲット：その進捗をチェックしよう | 11 |
| 12 | SDGs | 私たちのくらしとごみ | 12 |
| 13 | SDGs | エネルギー、環境、人間 | 13 |
| 14 | SDGs | 大学生の自由研究：SDGsの視点から | 14 |
| 15 | SDGs | 法律や制度から人と動物との共生を考える | 15 |
| 16 | SDGs | 未来社会をデザインする | 16 |
| 17 | SDGs | ごみの写真展 | 17 |
| 18 | SDGs | 最近の鳥取・日本の水環境にまつわる課題を学ぶ | 18 |
| 19 | グローバル | 民主主義を考える | 19 |
| 20 | グローバル | 「第三次世界大戦はもう始まっている」を読む | 20 |
| 21 | グローバル | Think Globally, Act Tottori | 21 |
| 22 | グローバル | 沼にはまろう | 22 |
| 23 | グローバル | 食べものから考える環境問題 | 23 |
| 24 | グローバル | 英語を使って楽しもう | 24 |
| 25 | グローバル | なぜ日本人は英語を話すことが苦手なのか？ | 25 |
| 26 | グローバル | 鳥取でグローバル社会を考える | 26 |
| 27 | グローバル | ニュージーランドの算数教科書を読む | 27 |
| 28 | 一般 | とっとりメモリープロモーション | 28 |
| 29 | 一般 | 生成AIについて考える。 | 29 |
| 30 | 一般 | クレイメーションを作ろう | 30 |
| 31 | 一般 | ちゃんと調べてみる | 31 |
| 32 | 一般 | IoT技術を駆使した足湯の健康増進効果プロジェクトA | 32 |
| 33 | 一般 | 帰ってきた　こちらTUES TV！！ | 33 |
| 34 | 一般 | テニスの科学 | 34 |
| 35 | 一般 | あなたのまちはどんなまちか？ | 35 |
| 36 | 一般 | 鳥取県の農業生産の未来を考える | 36 |

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | 麒麟 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 浅川　滋男 | | | | | | | | |

**授業の概要**

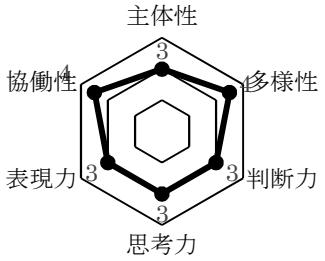
キーワード：　古民家再生　クラ（土蔵）　カフェ　フードスケープ　郷土料理

＜テーマ＞　古民家カフェと郷土料理のフードスケープ（１）

＜概要＞　これまでソバ食・精進料理・エスニック料理のフードスケープ（食の風景）のプロジェクトに取り組んできました。今回は少し見方を変え「古民家」、とくにクラ（土蔵）の活用に注目します。古民家・土蔵をカフェなどに再生する例が全国的に増え、人気を博しているからです。メニューについては、郷土料理系（川魚・山菜・ソバ食等）、エスニック系（アジア料理・洋食等）、喫茶系に分けて考える予定です。歴史建造物や木造建築を再生活用したカフェ＆レストランの魅力をおもに空間づくりから分析しつつ、提供されるメニューとの関係にも考察をひろげます。また、環謝祭に出店する屋台「東鯷人ナマズ屋」の食材を、郷土の古代食を意識して創作します。

**到達目標**

１年と２年の授業を原則「隔週（2 コマ）」でおこないますが、一部の授業（初回・見学・発表等）は合同になります。まず縄文・弥生時代の重要な食材であることが分かってきたナマズの調理（燻製など）を協働で実践し、郷土文化の理解を深めます。その後、郷土料理・エスニック料理・喫茶飲料と古民家カフェの内装・外観等の相関性を県内外の事例をもとに読み解いていきます。また、12 月には古民家もしくは木造建築カフェを利用した講演会を開催します。主体性、思考力、表現力、協働性などの向上が求められます。




＊パソコンは毎回持参してください。

**授業計画**

01.（0928）オリエンテーション【1・2 年合同】4 限＋α
02.（1005）古代食再現－環謝祭出品「ナマズ食（燻製）」【1 年】4～5 限
03.（1012）郷土料理創作－環謝祭出品「ナマズ食（天丼）」【2 年】4～5 限
＊上海で開催される国際学会招聘講演のため 10 月 19 日は休講→補講は 12 月 14 日の合同フォーラム
04.（1026）大学近隣の古民家（カフェもしくは空き家）で実習（1）【1 年】4～5 限
05.（1102）大学近隣の古民家（カフェもしくは空き家）で実習（2）【2 年】4～5 限
06.（1109）ネットで探る出身地の古民家カフェ（喫茶飲食系）【1 年】4～5 限
07.（1116）ネットで探る出身地の古民家カフェ（郷土食系）（1）【2 年】4～5 限
08.（1130）ネットで探る出身地の古民家カフェ（郷土食系）（2）【1 年】4～5 限
09.（1207）ネットで探る出身地の古民家カフェ（エスニック系）【2 年】4～5 限
10-11.（1214）木造建築系カフェでフォーラム【1・2 年合同】4～5 限（1 コマは 1019 補講分）
12.（1221）パワポ作成・発表会準備（1）【1 年】4 限　【2 年】5 限
13.（0111）パワポ作成・発表会準備（2）【2 年】4 限　【1 年】5 限
14.（0118）発表会リハーサル【1・2 年合同】4 限＋α
15.（0124）発表会【1・2 年合同】

＊活動内容は天候・感染症などの影響で変更になる可能性があります。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | ● | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

小レポートと最終成果（発表）を総合的に評価します。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

隔週の授業なので、間延びを防ぐため、簡単なホームワークを課します。

**履修上の注意事項**

原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | | ● | | 他の曜日の集合あり |

**教材**

◆教科書：
◆参考書：　『カールさんとティーナさんの古民家村便り』NHK 出版、2023

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | 麒麟 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 川口有美子 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　学校の適正規模・学校の小規模化・学校統廃合**

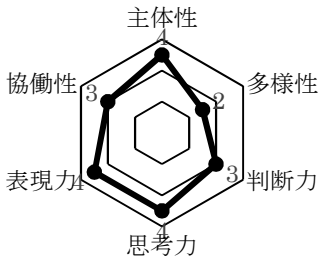
**＜テーマ＞　学校の適正規模を考える～学校の小規模化と統廃合～**

＜概要＞現在、小・中学校１学級あたりの人数は、小学１～４年生で 35 人、小学５年～中学３年生で 40 人を標準に（小５～６年生は令和６年度以降段階的に 35 人に）、そして、学校の適正規模（標準）は 12～18 学級という制度になっている。しかしながら、少子化に伴い一学級の人数や学校全体の学級数も標準を下回り、学校の小規模化や統廃合が全国で進行している。鳥取県東部における学校訪問調査も行いながら、小・中学校の適正規模について追究する。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とする。

本プロジェクトでは、まず「主体性」を持って当該テーマに向き合うことを第一とする。そして、自分なりに課題や疑問を持ちながらしっかりと「思考」し、見聞したものに対する価値「判断」をする。そして、それを言語で「表現」し、他者の「多様性」を積極的に受容し、「協働」しながら研究の成果をまとめていくことをめざす。




**授業計画**

1. オリエンテーション：テーマにかかわる専門用語・概念の学習
2. 情報収集：受講生各自の出身地域における学校統廃合の実態・再編計画
3. 情報収集：受講生各自の出身地域における学校統廃合の実態・再編計画
4. 報告と協議：出身地域における学校統廃合の実態・再編計画
5. 報告と協議：出身地域における学校統廃合の実態・再編計画
6. 情報収集と協議：鳥取市における学校再編計画
7. 訪問調査①：鳥取県東部（鳥取市）の学校
8. 訪問調査②：鳥取県東部（鳥取市）の学校
9. 訪問調査のまとめ
10. 発表会に向けた構想検討（コンテンツ・役割分担等）
11. 発表会に向けたプレゼンテーションの作成
12. 発表会に向けたプレゼンテーションの作成
13. 発表会リハーサル
14. 発表会リハーサル、ＷＥＢ登録
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | ● | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

毎回の活動状況と成果物作成における貢献度等、総合的に評価する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

学校教育にかかわる情報を積極的に得ておくこと（新聞・インターネット等）。

**履修上の注意事項**

**<u>原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</u>**

訪問調査の予定（実施日・訪問校）は先方の都合や感染状況等で変更することもある。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | | ● | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　なし

**◆参考書：**　なし

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | 麒麟 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 齊藤哲 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　プロジェクトマネジメント、プロセスの見える化、PDCA サイクル**

**＜テーマ＞　　鳥取を元気にするイベントをプロデュースする**

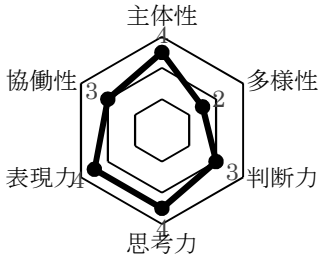
＜概要＞　学生自ら「鳥取を元気にするために開催したいと考えるイベント」を設定し、そのイベントをプロデュースするためにやるべきことを考えます。通常、イベント実施までのプロセスはチームで行うため、見える化が重要です。また、見える化したプロセスは、PDCA(Plan:計画, Do:実行, Check:評価, Action:対策・改善) サイクルを回しながら、成功に近づけていきます。本プロジェクト研究では、このイベントを成功に導くプロジェクトマネジメントの手順を体感します。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトでは、次の３つの能力を特に重要視します。

(1)主体性…積極的に参加する。
(2)思考力…筋道を立てて考える。
(3)表現力…考えたことを、的確に相手に伝える。




**授業計画**

1.イントロダクション（自己紹介、研究の概要など）
2.研究テーマ(イベント)の立案
3.研究テーマ(イベント)の計画
4.プロジェクトマネジメントの調査・分析(1)-作業の細分化-
5.プロジェクトマネジメントの調査・分析(2)-作業の細分化-
6.プロジェクトマネジメントの調査・分析(3)-スケジュールの作成-
7.プロジェクトマネジメントの調査・分析(4)-スケジュールの作成-
8.中間レビュー
9.研究テーマ(イベント)の詳細化(1) -リスクへの対応-
10.研究テーマ(イベント)の詳細化(2)-リスクへの対応-
11.研究テーマ(イベント)の詳細化(3)-収支計画、パンフレット作成-
12.研究テーマ(イベント)の詳細化(4)-収支計画、パンフレット作成-
13.発表準備(1)
14.発表準備(2)
15.発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | | ● | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | ● | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

講義・課題に取り組む姿勢、グループへの貢献度、発表内容などを総合的に評価する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | | ● | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

講義中に学習のヒントとなる課題を出すので、提出すること。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　特になし
**◆参考書：**　必要に応じて紹介する。

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | 麒麟 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 中治弘行 | | | | | | | | |

**授業の概要**

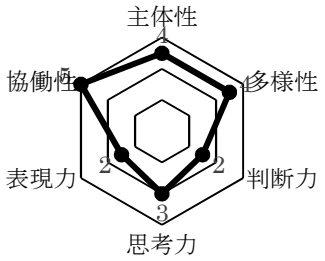
**キーワード：** オープンデータ、GPS、OpenStreetMap

**＜テーマ＞** OpenStreetMap による鳥取ガイドの試み 8　－誰かに教えたい場所－

＜概要＞
GPS・GIS を活用する上で重要となる地図データの自由な利用を目的とする OpenStreetMap(OSM)プロジェクトを理解し、大学周辺など鳥取市内の地図データ作成手法を身に付け、ガイドマップの作成を試みる。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。
本プロジェクトでは、特に主体性と協働性の発揮、向上を期待します。




**授業計画**

1. イントロダクション・グループ分けなど
2. OSM の概要や大学周辺に不足している地図情報を把握する
3. OSM への地図情報登録方法を学ぶ
4. 地域を決めて OSM への地図情報登録や更新を進める
5. 同上
6. 同上
7. 同上
8. 同上
9. 紹介・案内方法の検討に必要な情報を精査する
10. 同上
11. 同上
12. 同上
13. 発表準備
14. 同上
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

取り組み状況(60%)と成果物(40%)により評価する。出席の加点はしないが、欠席は減点材料になる。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

地図の作成には町歩きが必須となり、時にはその様子を不審に思われる事態も想定されるので、学外での活動に当たっては特に責任感を保ち、単独行動を避けること。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | | ● | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：** 特に指定しない
**◆参考書：** 特に指定しないが、ノート PC を毎回持参すること。 GPS 機能を持ったスマートフォンなどを持っているとよい。

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | 麒麟 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 根本昌彦 | | | | | | | | |

**授業の概要**

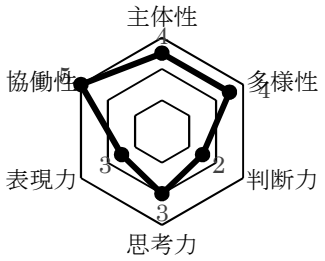
**キーワード：　遊歩道、キャンプ、環境教育、**

＜テーマ＞　森林空間の利用を考える
～キャンプ場、遊歩道等による森林サービス産業化に向けて～

＜概要＞
鳥取県東部の中国自然歩道や大学周辺の遊歩道・キャンプ場などをフィールドにして、観光や教育に活用できるような森林空間の利用を考える。ルート踏査をし、施設整備などをしながら実践的な態度で問題に取り組みたい。そうした活動を通して、課題を明らかにし、今後の利用可能性を考えたい。

**到達目標**

プロジェクト研究２では、主体性、多様性、協働性の３つの能力を身につけることを目標とします。
本プロジェクトでは、身近にある自然環境に対して、グループメンバーと協働しながら実践的、体験的にアプローチします。




**授業計画**

1　概要説明、自己紹介、グループ分けなど
2　若葉台の森探索
3　森の健康診断（１）
4　森の健康診断（２）
5　キャンプ場・遊歩道作り体験活動（１）
6　キャンプ場・遊歩道作り体験活動（２）
7～９　デイキャンプ
10　中国自然歩道等の踏査（１）
11　中国自然歩道等の踏査（２）
12　中国自然歩道等の踏査（３）
13　グループ発表
14　プレゼンテーション準備
15　発表会
天候や状況により予定は変わります。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

学習態度、プレゼンの準備状況などから総合的に評価する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

土日を使うことが多くある。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内Web・発表会用プレゼンのみ作成 | | | ● | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | ● | | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | | | ● | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**
**◆参考書：**

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | 麒麟 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 兪　成華 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　穴場温泉、PR、鳥取市**

**＜テーマ＞　　鳥取県の穴場温泉を発見しよう**

＜概要＞

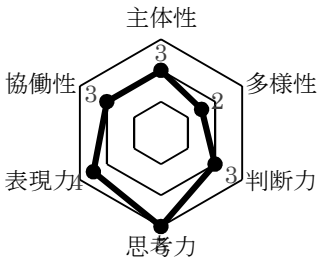
鳥取のまちなかには、吉方温泉町、末広温泉町、永楽温泉町など“温泉”に関係ありそうな地名がいくつか存在します。実に鳥取の中心市街地にわく“天然温泉”が多数存在しています。

都会の喧騒から離れ、新たな日常やコミュニティを築くことができる“サードプレイス”として、年々注目が高まる温泉ですが、地元の人々はどんな温泉を愉しんでいるか。本研究プロジェクトでは、鳥取県の周辺の観光スポットと合わせて、穴場として、ユニークな温泉を発見・アピールしよう。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とする。

１．筋道を立てて考える「思考力」
２．複数の異なる考え方から結論を得る「判断力」
３．自らの考え方を他人に伝える「表現力」
４．自分の意見を作る「主体性」
５．異なる立場や意見を適確に理解する「多様性」
６．様々な人とともに目的を達成しようとする「協働性」




**授業計画**

1．　授業概要の説明
2.　チーム分け、調査対象の選定
3～5.　文献学習、調査計画の作成
6～8.　調査の実施、データ収集と分析
　　(穴場温泉及びその周辺街のフィールドワーク　２回)
9.　中間報告
10～12.　調査の継続、データ収集と分析
　　(穴場温泉及びその周辺街のフィールドワーク　２回)
13～14.　プレゼンテーションの準備
15.　発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

授業態度、発言、チームワーク、発表内容、個人レポート、聴講等を総合的に評価する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

・参考書や資料を読む。
・次回の作業を考えて、事前にデータ収集など準備をする。

**履修上の注意事項**

原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | | | ● | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　特に指定しない。
**◆参考書：**　授業中に随時紹介する。

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマ<br>カテゴリ | 麒麟 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 吉田高文 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　ガーデニング、ナチュラルガーデン、地域野菜（伝統野菜）**

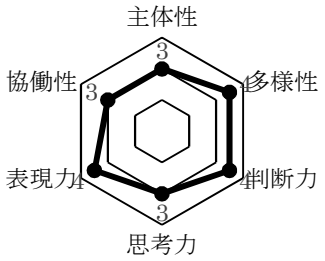
**＜テーマ＞　ガーデニングと地域の経営課題**

＜概要＞　TUES ナチュラルガーデンについて理解を深めるとともに、ガーデニングや造園業の実態を踏まえて、庭づくりや野菜栽培について学習する。とくにさまざまなガーデンの特長や活用例を調べ、利用者（消費者）に対する提案内容、提案方法などを検討する。プロジェクト研究４と共同で行う。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクト研究２では、とくに実態調査や観察を通じて理解する判断力、仮説を立てて検証する思考力およびガーデニング活動や地域野菜（伝統野菜）の学習から学び取る多様性を身につけることができる。




**授業計画**

1. ガイダンス
2. TUES ナチュラルガーデンについて
3. 地域野菜・伝統野菜
4. 指定管理者制度
5. ナチュラルガーデンの手入れ（1）
6. ナチュラルガーデンの手入れ（2）
7. ガーデンデザインとガーデニングの知識
8. 経営戦略と植物の生存戦略（1）
9. TUES ナチュラルガーデンの環境価値
10. 実態調査
11. ナチュラルガーデンの手入れ（3）
12. 経営戦略と植物の生存戦略（2）
13. 発表資料の作成（1）
14. 発表資料の作成（2）
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | ● | | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | ● | | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

参加状況、学習意欲、最終成果物への貢献などを総合的に判断する。最終成果物への貢献を重視する。参加状況 10%、学習意欲 10%、最終成果物への貢献 80%。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | ● | | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

八頭町の遠藤農園（オズガーデン）等で実態調査を予定している。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

授業をオンラインで実施する場合がある。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教材**

**◆教科書：**　なし

**◆参考書：**　ポール・スミザー『ナチュラルガーデンをつくろう』2013 年、中央印刷株式会社、ISBN978-4-9907350-0-5

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマ<br>カテゴリ | 麒麟 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 吉永郁生 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　地方創生、麒麟地域**

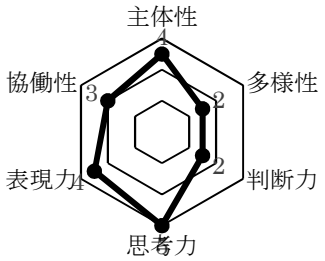
**＜テーマ＞　　「〇〇王国、鳥取」を構想する**

＜概要＞　鳥取を含む山陰地方の社会や経済、文化は、鳥取の自然環境や歴史と密接に関わっています。鳥取県の地方創生を考えるうえで、鳥取市や兵庫県北部を含めた町村群から成る「麒麟地域」で、今後目指すべきスローガン「〇〇王国」を構想します。そのためにこの地域の独自性、他地域との比較優位・劣位を探してみるところから始めます。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトでは、特に資料に基づく思考力（論理性）と表現力に重点を置きます。また活動は個人活動とグループ活動の両方がありますので、主体性と協働性が必要になります。




**授業計画**

1. ガイダンスと背景の説明
2. 個人研究計画１
3. 〇〇王国を考えるための方法（講義と討論）
4. 個人発表
5. 個人発表
6. 個人発表
7. グループ研究計画
8. 研究実施
9. 研究実施
10. 研究実施
11. 研究実施
12. 発表準備
13. 発表準備
14. 予備日
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | | ● | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | ● | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

個人の発表内容とグループ研究の発表内容およびそれに関連した討論で評価します。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

場合によっては、講義外、学外での活動があります。また、同一日に４限・５限を通して実施することもありますが、事前に皆さんと相談します。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | | ● | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**
**◆参考書：**

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | 麒麟 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 連　宜萍（専任） | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　国際化、異文化、国際交流**

**＜テーマ＞**　まちなかの国際化を考える

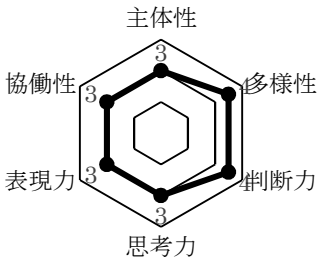
＜概要＞

経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）は国境を越えて移動しています。我々は海外に行かなくても、常に外国の商品を買って使って、外国の情報を得て、外国語の案内表示を見て、外国人と触れ合うチャンスがあります。本プロジェクトでは、まず町中や周りの国際化の現状を見て調べます。今後ますます国際化が進むなかで、日本はどう変わるか、どう対応すべきか、などを考察します。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトではまちなかの国際化についての現状を考察したうえで、ブレーンストーミングとKJ法を用いて自ら研究課題を設定します。まちなかの国際化の**問題は何か**を発見するために、グループメンバーと議論することを通じて情報収集、調査計画、実施方法等を学習します。




**授業計画**

1. イントロダクション
2. ブレーンストーミング
3. 研究テーマを決め、チームを分けます
4. 既存文献より国際化の現状を把握します
5. 調査の質問票を作成し、調査計画を立てます
6. フィールド調査の準備・計画について報告します
7. 調査の実施
8. 調査結果の報告、ディスカッション
9. 調査の実施
10. 調査結果の報告、ディスカッション
11. 調査の実施
12. 調査結果の報告、ディスカッション
13. 研究成果まとめ
14. 成果物のアップロード、発表リハーサル
15. 公開発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | | ● | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | ● | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

グループディスカッションへの参加、プロジェクトへの貢献（とりわけ他のグループへの貢献的なコメント）、成果物等を総合的に評価します。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

講義時間は主に発表や検討に使うため、グループ議論やフィールド調査、パワーポイントの作成は講義時間外で行うこと。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内Web・発表会用プレゼンのみ作成 | | ● | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | | | ● | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**

**◆参考書：**　授業中に必要に応じて指定する。

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマ<br>カテゴリ | SDGs |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 石川　真澄 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　住み続けられるまちづくり、バリアフリー、地域交通**

**＜テーマ＞　　鳥取市のバリアフリーまちづくりの「いま」と「これから」**

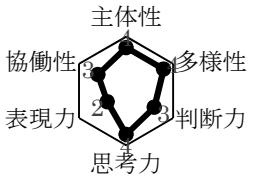
＜概要＞　　SDGｓの目標 11「住み続けられるまちづくりを」のターゲットの一つに「2030 年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子ども、障害者、および高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、すべての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。」というものがあります。

　すべての人々が自由に移動できる地域を実現するには、交通機関相互の乗り継ぎや、交通結節点と人々が利用する場所をつなぐ空間が、誰もが利用し易いよう整備される必要があります。現在、各自治体はこうしたバリアフリーのまちづくりを進めており、鳥取市も計画を策定し、取り組みを進めようとしています。このプロジェクトでは、鳥取市の中心市街地などを対象に、地域の実情や、バリアフリーに向けて対処すべき優先度の高いポイントなどを探るとともに、地域の取り組みを推進する方策を考えます。

**到達目標**

　プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

　プロジェクト研究２の受講者は、同時に実施するプロジェクト研究４の受講者とともに、協力してグループ活動を遂行できることを目標とします。




**授業計画**

　※　本プロジェクトは下記の通り、教員の計画だけでなく、受講者の自発的な計画を重視します。以下の「授業計画」の内容やスケジュールは受講者の計画により変化します。

1. イントロダクション　テーマとその背景について
2. まちのバリアとバリアフリーなまちづくりを考える
3. バリアフリーなまちづくりの法や制度を調べる
4. 鳥取市バリアフリーマスタープランを読む
5. 実情との把握と課題の抽出（１）
6. 実情との把握と課題の抽出（2）
7. 実情との把握と課題の抽出（３）
8. 検討対象を定める
9. 改善案の検討（１）
10. 改善案の検討（２）
11. 鳥取市バリアフリーマスタープランを検証する
12. 成果物のとりまとめ(1)
13. 成果物のとりまとめ(2)
14. 発表会準備
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

グループとしての活動実態、その過程での各個人の貢献度や過程における思考や議論の深まりを、通常の活動内容や受講者自身による自己評価、成果物や発表会の内容などから総合的に評価します。通常の講義以上に出席して活動に参加することは重視します。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

プロジェクトの過程で時間外の学習や調査が必要となります。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

グループでの活動が多くなりますので、出席については上の全学共通基準より重視します。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**
**◆参考書：**

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマ<br>カテゴリ | SDGs |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 角野　貴信 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　持続可能性，汚染，環境の劣化と修復**

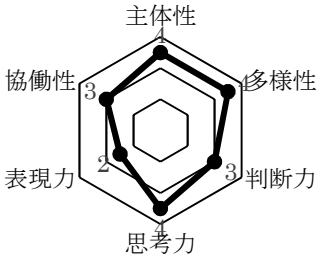
**＜テーマ＞　「陸の豊かさ」に関わる SDGs ターゲット：その進捗をチェックしよう**

＜概要＞　2030 年までに達成すべき「持続可能な開発目標（SDGs）」では，より具体的な達成基準として，169 のターゲットが定められている。これらのうち，ゴール 15「陸の豊かさも守ろう」に関連するターゲットについて日本や他国の進捗状況を比較することにより，明らかになった課題やその解決策を議論する。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では，思考力，判断力，表現力，主体性，多様性，協働性の６つの能力を身につけることを目標とする。

本プロジェクトでは特に、課題を分析するための思考力を重視する。主体的に多様な意見を集め、それらを包摂・統合化するプロセスを協働して行える能力を養う。




**授業計画**

1. プロジェクトの概要説明
2. 課題・班の設定と班内での役割分担の決定
3. 「陸の豊かさ」に関わる SDGs に関する情報収集：日本
4. 「陸の豊かさ」に関わる SDGs に関する情報収集：日本
5. 「陸の豊かさ」に関わる SDGs に関する情報収集：他国
6. 「陸の豊かさ」に関わる SDGs に関する情報収集：他国
7. ターゲットの進捗状況に関する議論：日本
8. ターゲットの進捗状況に関する議論：日本
9. ターゲットの進捗状況に関する議論：他国
10. ターゲットの進捗状況に関する議論：他国
11. 課題や解決策に関する議論：日本
12. 課題や解決策に関する議論：他国
13. 課題や解決策に関する議論：まとめ
14. プレゼンテーションの準備
15. プロジェクト研究発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

プロジェクトへの貢献度を総合的に評価する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

授業中に出された課題を班内で分担してまとめ，レジュメや発表スライドを作成する。授業中に分からなかった語等があった場合は，関連する書籍を読む等の自習を行う。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | | ● | | 他の曜日の集合あり |

**教材**

**◆教科書：**　高井亨・甲田紫乃編著（2020）『SDGs を考える―歴史・環境・経営の視点からみた持続可能な社会』ナカニシヤ出版。

**◆参考書：**

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマ<br>カテゴリ | SDGs |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 金　相烈 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：** ごみ調査、一人くらし、排出抑制

**＜テーマ＞** 私たちのくらしとごみ

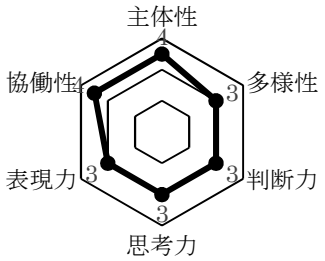
＜概要＞

本プロジェクト研究では、私たちのくらしとごみがいかに密接に関連しているかを理解するために、わたしたちの毎日のくらしから、どのようなごみが、どれくらい出ているか、また一人暮らしのごみの特徴を調べ、さらにごみ減量のための改善策を工夫し、検証する。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトでは、自らやるべきことを見つけて主体的に取り組むこと、また、他の学生と協働しながら進めていくことを重視します。最終的には課題を明らかにし、筋道を立てて体系的に考える力を身につけることを目指します。




**授業計画**

1. ガイダンス・自己紹介
2. 各地元におけるごみ処理について調査し、発表する。
3. 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する１
4. 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する２
5. 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する３
6. 自分の生活から発生したごみの量と割合を調べ記録する４
7. １か月間の結果をまとめ、発表する１（中間発表）
   （班分け：①一人暮らしのごみ特徴を調査する班、ごみ削減の対策と検証を行う班）
8. １か月間の結果をまとめ、発表する２（中間発表）
   （班分け：①一人暮らしのごみ特徴を調査する班、ごみ削減の対策と検証を行う班）
9. 班ごとに調査１
10. 班ごとに調査２ごみ削減の対策案を発表する
11. 班ごとに調査３
12. 班ごとに調査４
13. これまでの調査内容のとりまとめ及び発表準備１（発表練習）
14. これまでの調査内容のとりまとめ及び発表準備２（発表練習）
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | ● | | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | ● | | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

チーム力（２割）、コミュニケーション（２割）、プレゼン力（２割）、寄与度（１割）、発表成果物（３割）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | | ● | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**
**◆参考書：**

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマ<br>カテゴリ | SDGs |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 甲田紫乃 | | | | | | | | |

**授業の概要**

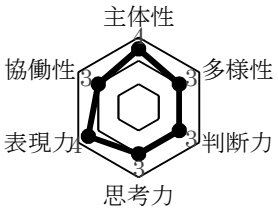
**キーワード：　エネルギーコミュニケーション、エネルギー政策、まちづくり**

＜テーマ＞　エネルギー、環境、人間

＜概要＞　エネルギーコミュニケーション（エネルギー科学の一領域）及びグループ・ダイナミックス（社会心理学の一領域）の学際的観点から、エネルギー政策とまちづくりについて多角的な分析・考察を行う。本プロジェクト研究２では、特に「考えること」「調べること」「表現すること」に焦点をあて、エネルギー科学に特徴的な学際的視野を用いて、各自の知見・見識を深化させる。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とする。本プロジェクトでは、この６つの能力を身につける過程で、以下の３点、すなわち、




・各発電方法の違いを、その歴史的背景やリスクマネジメントの観点も含めて、分かりやすく説明することができる。

・エネルギー、環境、人間の関係性について自分なりに考察することができる。

・知りたい情報をウェブのみならず、学術図書や学術論文、統計データなどから見つけ出し、分析することができる。

この３点を身につけることを目標とする。

**授業計画**

1. イントロダクション①：グループ・ダイナミックス、エネルギーコミュニケーション
2. イントロダクション②：グループ・ダイナミックスの観点からのリスクマネジメント
3. イントロダクション③：エネルギー、環境、人間、学術論文の読み方・プレゼンの仕方などの基礎
4. 調査（１）
5. 調査（２）
6. 調査（３）
7. 調査（４）
8. 中間報告会及びディスカッション
9. 調査（５）
10. 調査（６）
11. 調査（７）
12. 調査（８）
13. 最終報告会及びディスカッション、発表準備
14. 発表練習
15. 発表会　　※順番等は変更になる可能性がある。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | ● | | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

各回の取り組み状況（40%）、報告会（30%）、発表会（30%）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

特になし。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**
**◆参考書：**

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | SDGs |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 高井亨 | | | | | | | | |

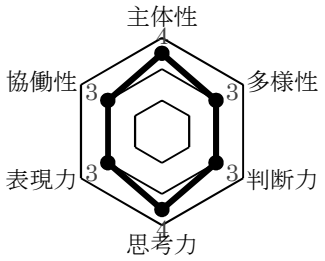
**授業の概要**

**キーワード：　自由の意味、研究、SDGs と SDGs ではないもの**

＜テーマ＞　　大学生の自由研究：SDGs の視点から
＜概要＞　自らテーマを設定し、研究を遂行します。テーマは自由に選んで構いませんが、ひとつだけ制約があります。各自が選んだテーマが、どのように SDGs と関係するのか（しないのか）、つまり SDGs という視点から考察をおこなってください。みなさんが関心のあるテーマと SDGs それぞれについて深く理解することが求められます。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。
本プロジェクトでは、どの能力もまんべんなく必要です。しいていえば「主体性」と「思考力」を身につけることを目標にします。




**授業計画**

１：イントロダクション（自己紹介など）
２：研究テーマの探索
３：各自の研究テーマの発表
４：研究テーマの練り直し
５：先行研究の調査
６：先行研究の調査
７：調査・分析
８：調査・分析
９：中間発表会
１０：調査・分析
１１：調査・分析
１２：成果物づくり
１３：成果物づくり
１４：プロ研内での発表会
１５：プロ研発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | | ● | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | ● | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

意欲・態度・成果をもとに評価する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

意義のある成果を得るためには、講義時間外にも研究をすすめることが必須です。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | | ● | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　適宜紹介する。
**◆参考書：**　適宜紹介する。

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | SDGs |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 中山　実郎 | | | | | | | | |

**授業の概要**

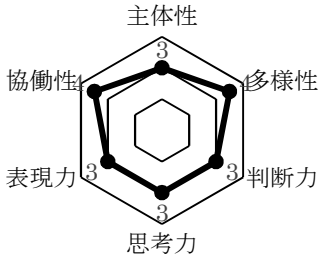
**キーワード：　人と動物との共生、事例・判例、法制度**

**＜テーマ＞　法律や制度から人と動物との共生を考える**

＜概要＞ペットを巡るトラブルや殺処分、野良猫や鳩への餌やり、野生動物による食害、絶滅危惧種の保護に、外来生物がもたらす生態系への影響など、私たちの周りには、人と動物との関係を考える問題が多く存在します。本プロジェクト研究では、人と動物との共生をテーマに、実際に起こった事例や裁判例、地域の取組みなどを通して、その本質を探っていきます。合わせて動物に関する法制度、行政や地域とのかかわりについて学んでいこうと思います。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。本プロジェクト研究では、グループ単位で調査する分野や事例を決め、事件の内容や関係する法律や制度を含めて、事の発端から結論に辿り着くまでの経緯を調べ、議論することで、調査・研究活動に必要な能力、とくに２では協働性、多様性を身に付けることを目標とします。




**授業計画**

1. オリエンテーション
2. 授業の進め方、テーマ設定、グループ分け、スケジュールの調整・確認　等
3. 事例研究①
4. 事例研究②
5. グループごとに計画案の検討、進行状況等を確認
6. グループ作業
7.　〃
8. 中間報告、意見交換
9. グループ作業
10.　〃
11. 進行状況等の確認
12. グループ作業
13. 発表会のリハーサル①
14. 発表会のリハーサル②　発表用資料の完成
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

出席(30%)、グループ活動への取組姿勢や貢献度(30%)、成果物と発表(40%)による評価

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

講義時間でのグループ作業が中心になりますが、進行の具合により、授業時間外の活動が必要になる場合があります。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教材**

**◆教科書：**　特に指定しない。必要に応じて資料を配布。
**◆参考書：**　適宜紹介する。

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | SDGs |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 堀 磨伊也 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　未来社会、Society 5.0、人工知能**

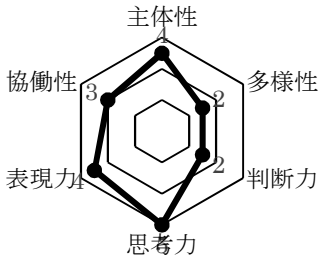
**＜テーマ＞　未来社会をデザインする**

＜概要＞　我が国が目指すべき未来社会として Society 5.0 が提唱されている。どのような社会が実現できるのかを予測し、それに向かうことは重要である。本プロジェクト研究では興味があるテーマに関して、未来社会を独自にデザインするとともに、そのデザインの根拠となる情報を収集・活用することで論理的に話を展開する演習を行う。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトでは、特に思考力（筋道を立てて考える力）を用いて未来社会を創造すること、グループ内で議論を重ねることにより表現力（自らの考えを他人に伝える力）を高めることを目標とする。




**授業計画**

1. イントロダクション
2. 過去に行われた未来予測の調査（個別）
3. 過去に行われた未来予測についての調査結果の発表会（個別）
4. グループ分け，テーマ決め
5. テーマに関する歴史調査１
6. テーマに関する歴史調査２
7. テーマに関する未来社会の創造
8. テーマに関する未来社会の創造結果の中間発表会
9. 未来社会の予測の根拠となる資料収集１
10. 未来社会の予測の根拠となる資料収集２
11. 根拠に基づく未来社会の再デザイン１
12. 根拠に基づく未来社会の再デザイン２
13. 発表準備１
14. 発表準備２
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

個別の貢献度(60%) 、中間発表(10%)、最終発表(30%)で評価する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | | ● | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

最新の科学技術の動向を日常的に注視する。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

授業支援システムを介して報告提出を行う必要があるため、各自パソコンを持参すること。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　特になし

**◆参考書：**　特になし

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマ<br>カテゴリ | SDGs |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 門木　秀幸 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　不法投棄、廃棄物、環境汚染**

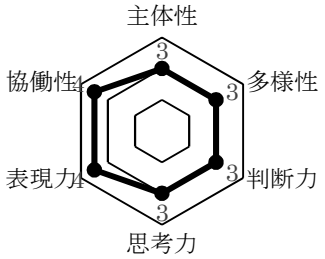
**＜テーマ＞　　ごみの写真展**

＜概要＞　プラスチックごみによる海洋汚染の問題、廃棄物の不法投棄等様々な廃棄物に関する課題や取り組みが注目されています。私たち自身のごみ問題に対する意識の改革が求められています。しかし、廃棄物問題と言われても自分たちがどのくらいごみを出しているのか、あるいは自分たちの日常とどのように係わりがあるのか、この問題を身近に感じることができません。本プロジェクト研究では、ごみ問題について意識啓発を図ることを目的とした「ごみの写真展」を企画、開催することを目標とし、その企画の中で素材の収集、意識啓発の方法や開催方法の議論を通じて、廃棄物問題と私たちの生活の係わりについて考えます。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトでは、「ごみの写真展」の企画をつうじて廃棄物問題について理解を進め、具体的な啓発活動を行います。その中で特に廃棄物問題について分析する方法や、そのための問題意識や能力を身に付けます。




**授業計画**

1. プロジェクト研究の概要説明、プロジェクト研究の進め方についての協議
2. 学校内及び周辺のごみの状況の調査
3. 「ごみの写真展」について企画案を検討
4. 写真等の素材の収集、廃棄物問題について調査、展示物の準備①
5. 写真等の素材の収集、廃棄物問題について調査、展示物の準備②
6. 写真等の素材の収集、廃棄物問題について調査、展示物の準備③
7. 写真等の素材の収集、廃棄物問題について調査、展示物の準備④
8. 写真等の素材の収集、廃棄物問題について調査、展示物の準備⑤
9. 「ごみの写真展」について広報の検討、展示物の準備
10. 展示開始
11. アンケート調査の実施
12. 成果物の取りまとめ
13. プレゼンテーションの準備、発表準備
14. 展示物の撤収、発表練習
15. 発表会

・講義の時間以外に不法投棄パトロールへの参加や写真等の素材の収集のため学外に出かけることがあります。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

講義への取組み姿勢、出席の状況、積極性、チームへの貢献度等を総合的に評価します。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

必要に応じて関連情報の収集、プレゼンテーションの準備等があります。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | | | ● | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | | ● | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**
**◆参考書：**

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマ<br>カテゴリ | SDGs |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 山本　敦史 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：** 水質、河川工事・砂浜の消失、福島第一原発処理水海洋放出

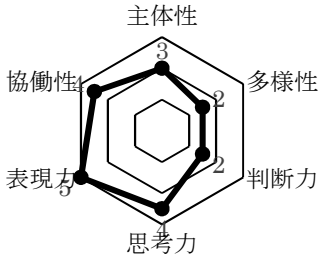
**＜テーマ＞**　最近の鳥取・日本の水環境にまつわる課題を学ぶ

＜概要＞　水は生命の源であり、鳥取市はその主な水源を千代川の伏流水に求めている。水源としての利用に限らず、防災等の面でも人間社会は水環境に手を入れ続けている。それによる影響が水環境そのもの、また流域の生態系に及ぶ。このプロジェクト研究では近年の水環境を取り巻く課題について考える。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトでは、水環境の抱える課題について水質調査や施設見学等を通して理解し、内容を適切な資料を用いて説明できるようになることを目標とする。また、放射線や処理水海洋放出についても科学的に理解する。




**授業計画**

1. ガイダンス
2. 鳥取・日本の水環境の問題について
3. 大学周辺の水の水質調査
4. 水道水について
5. 6. 浄水場見学
7. きれいな水とは　水質について学ぶ
8. 水循環について学ぶ
9. 福島第一原子力発電所からの処理水海洋放出　1
10. 福島第一原子力発電所からの処理水海洋放出　2
11. 健全な水環境について考える
12. 調査課題の抽出、班分け
13. 学内発表会の準備 1
14. 学内発表会の準備 2
15. 発表会

水に関する施設見学では一日に複数回分の授業を行う。天候・進捗により授業の順番は前後する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | ● | | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

各回での資料作成と発表会の内容で評価する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | ● | | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

水と私達の暮らし、生態系の繋がりについて広報資料や文献等で情報を収集すること。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　なし
**◆参考書：**　なし

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | グローバル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 相川　泰 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：** 決め方、国際比較、身近なところから地球規模まで

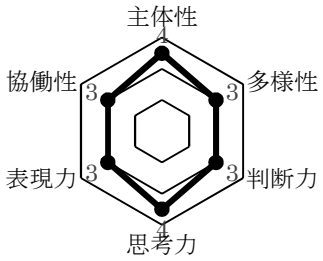
**＜テーマ＞　民主主義を考える**

＜概要＞　今の日本で「民主主義」は当然の前提のようです。しかし、世界を見ると、その実現を求める人々がいる国もあれば、それを失った人々がいる国もあり、今世紀はそれがない方が良いという意外な国際比較の結果もあります。身辺から諸外国・地域、全世界、過去・未来など多角的な視野から民主主義について考えます。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトでは、民主主義につき、各自が話題や論点などを持ち寄り、意見交換などでそれぞれについて掘り下げたうえで、本プロジェクトに参加していない人にも理解可能で有意義なように成果物をまとめ、発表します。




**授業計画**

1. 顔合わせ、趣旨説明、前提知識共有、当初の計画（話題の例を含む）案の提示と確定
2. 各自による提供希望話題の提示、調整と順序づけ、話題提供の手順の確認
3. 最初の担当者たちによる話題提供
4. 最初の担当者たちの結論報告、２番目の担当者たちによる話題提供
5. ２番目の担当者たちの結論報告、３番目の担当者たちによる話題提供
6. ３番目の担当者たちの結論報告、４番目の担当者たちによる話題提供
7. ４番目の担当者たちの結論報告、５番目の担当者たちによる話題提供
8. 中間確認、５番目の担当者たちの結論報告、６番目の担当者たちによる話題提供
9. ６番目の担当者たちの結論報告、まとめ方についての方針の話し合いと決定
10. まとめ方についての方針に基づいた、まとめ（成果物、発表会発表）の素案作成
11. まとめの中間案の作成
12. まとめの最終案の作成
13. まとめの最終案の修正要否の確認（個別および全体として）
14. 発表会予行演習、成果物 Web 掲載
15. 発表会

上記計画は必要や状況に応じて修正、変更することがある

各回の司会、記録等は２回目以降、持ち回りで担当する

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | ● | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

円滑な運営への協力姿勢２割、話題提供２割、話し合いへの参加姿勢３割、発表会準備と Web 成果物作成の過程および完成度３割の比重で評価

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

授業時間は集まってしかできない作業のためのものとし、各自、個人で出来ることは時間外に行うこと。授業支援システムも相互に積極的に活用すること。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | | ● | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**

**◆参考書：**

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | グローバル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 荒田鉄二 | | | | | | | | |

**授業の概要**

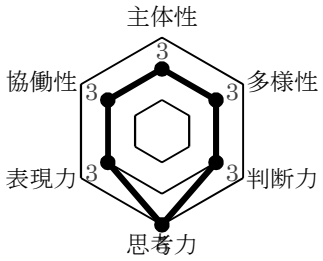
**キーワード：　ロシア、ウクライナ、戦争**

**＜テーマ＞　　「第三次世界大戦はもう始まっている」を読む**

＜概要＞
エマニュエル・トッド著「第三次世界大戦はもう始まっている」を題材に、異なる視点から世界を見ることを学ぶ。また、グループでのディスカッションを踏まえて、学んだことを発表会用のスライドに取りまとめる。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。
本プロジェクトでは、物事を多面的かつ深く考える思考力を重視します。




**授業計画**

1. 全体説明
2. 第１章「第三次世界大戦はもう始まっている」の整理
3. ディスカッション１
4. 第２章「ウクライナ問題をつくったのはロシアではなくＥＵだ」の整理
5. ディスカッション２
6. 第３章「ロシア恐怖症は米国の衰退の現れだ」の整理
7. ディスカッション３
8. 第４章「ウクライナ戦争の人類学」の整理
9. ディスカッション４
10. 西側から見たウクライナ紛争
11. ロシアから見たウクライナ紛争
12. 途上国から見たウクライナ紛争
13. 発表スライドの取りまとめ１
14. 発表スライドの取りまとめ２
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

議論への参加状況（30%）、グループ内での役割の履行状況（40%）、発表会レポート（30%）により評価

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

第２回までに本をよく読んでおくこと。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　ｴﾏﾆｭｴﾙ･ﾄｯﾄﾞ，第三次世界大戦はもう始まっている，文春新書（2022）
**◆参考書：**

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | グローバル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 加藤　禎久 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　世界の中の日本、SDGs、DX**

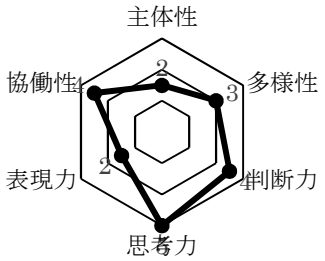
**＜テーマ＞　Think Globally, Act Tottori**

＜概要＞　「地球規模で考え、足元から行動せよ」という標語を知っていますか。このプロジェクト研究では、私たちが生活している鳥取でできることを考えます。前半は、教員が指定する他の国に関する調査をし、後半は大学付近のとある場所での、地球規模の課題の解決につながる取り組みの提案をグループごとに行います。また、共通してオンライン共同編集作業とプロっぽいデザインができる Canva の使い方を身につけます。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトでは、特に「考える」ことを重視する。良い提案するためには、事前の調査・分析が不可欠である。また、異なる考えを持つグループメンバーと協働して成果物を作り上げることも重要である。




**授業計画**

1. ガイダンス：テーマとプロ研の流れ（進め方）についての説明、注意事項、自己紹介
2. 前半グループ分け、担当国名発表、グループ内で自己紹介、調査テーマを話し合う
3. 調査テーマを教員と相談の上、決定
4. リサーチ
5. リサーチ
6. リサーチ
7. グループごとに中間発表会の準備
8. <u>中間発表会</u>（クラス内のみ）
9. 後半テーマサイト見学、グループ分け発表、グループ内で自己紹介
10. サイトで行うことと、それが地球規模の課題とどう関係しているのか議論
11. サイトで行うことと、それが地球規模の課題とどう関係しているのか議論
12. サイトで行うことと、それが地球規模の課題とどう関係しているのか議論
13. グループごとに最終発表会の準備
14. グループごとに最終発表会の準備、リハーサル
15. <u>最終発表会</u>（公開）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

中間発表（35%）、最終発表（35%）、グループメンバー間の相互評価（10%）、出席（授業内活動参加）点（20%）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

２回の発表会の前には<u>授業時間外で</u>グループごとに集まり、追加調査をしたり発表の準備や練習をしたりする時間が必要になるので注意。

**履修上の注意事項**

<u>原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。</u>

ノートパソコンを持参すること。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　なし

**◆参考書：**　必要に応じて適宜示す。

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | グローバル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 小杉 卓裕 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　プレゼンテーション、自己洞察、多様性**

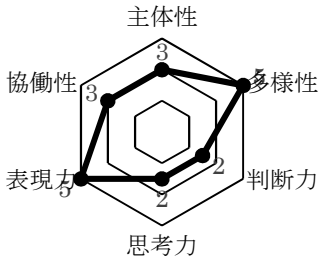
**＜テーマ＞　　沼にはまろう**

＜概要＞　日本においてアイドルは一つの文化といってよく、昨今は男性・女性関わらず韓国発信のアイドルも増えており、その売り出し方も多種多様になってきている。本プロジェクト研究では主に日本・韓国の男性・女性アイドルを対象とし、好きなアイドルについてプレゼンテーションや動画鑑賞を行いその良さを議論し、また他者のプレゼンテーションを聞く等を行う。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とする。

本プロジェクトでは、プレゼンテーション能力のために必要な自己洞察および表現力、また、他者と議論する上で重要な多様性を許容する能力を身につけることを目標とする。特にグループ内でコミュニケーションをとる能力を重視する。




**授業計画**

1. 自己紹介，プロ研方向性決め
2. 個々に好きなアイドルについてプレゼンテーション 1-1
3. 個々に好きなアイドルについてプレゼンテーション 1-2
4. 個々に好きなアイドルについてプレゼンテーション 1-3
5. 個々に好きなアイドルについてプレゼンテーション 1-4
6. 少人数グループ分け，好きなアイドルについて調査
7. プレゼン資料作成
8. プレゼンテーション２
9. 少人数グループ分け，好きなアイドルについて調査
10. プレゼン資料作成
11. プレゼンテーション３
12. 最終発表用グループ分け，好きなアイドルについて調査
13. プレゼン資料作成
14. 発表練習
15. 発表会

※4、5 限連続であるが隔週等に行うことにより全体で 15 回分に調整する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | | ● | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | ● | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

プレゼンテーション・他者への質問などの積極性（100%）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

発表資料の作成

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | | ● | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**
**◆参考書：**

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | グローバル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 佐藤　伸 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　食料生産、食料廃棄物、環境問題**

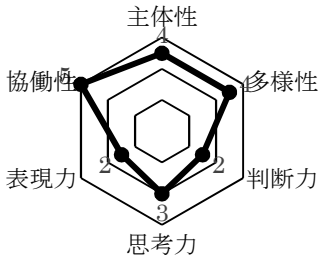
**＜テーマ＞　　食べものから考える環境問題**

＜概要＞　普段、何気なく摂っている食事の内容を少し深く考えます。その食材はどこから来るのか、またどう利用、消費されているのかを調べていくと、単に食料廃棄の問題にとどまらず、私たちの食生活がグローバルな環境問題にもつながっていることに気づきます。本講義では、私たちの身近な食べものから環境問題について考えます。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトでは、思考性、協働性、多様性に重点を置き、講義で提示する課題を学生が解決していくなかで、個人あるいはグループでこれらの能力を伸ばしていくことを目標とする




**授業計画**

1. 講義内容の説明
2. 食に関する映画の視聴１
3. 食に関する映画の視聴２
4. 現代食の問題に関するグループディスカッション
5. 調査テーマに関する議論
6. 研究調査の実施
7. 進捗成果報告会１
8. 進捗成果報告会２
9. テーマごとの調査の続き
10. 進捗成果報告会３
11. 全体でのグループディスカッション
12. 研究成果のまとめ
13. 発表スライドの作成
14. 発表スライドの最終調整と発表練習
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

授業に取り組む積極性を重視して成績を評価します。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

特になし

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**
**◆参考書：**

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | グローバル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 徳山瑞文 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　使える英語　　英語苦手意識　　流暢さ第一**

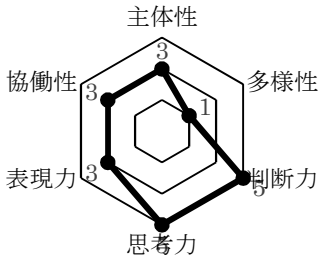
**＜テーマ＞　　英語を使って楽しもう**

学生のグローバルな視点を育むために不可欠な英語の実践運用能力を身につけてもらうのは、単語、イデオム、英文法を組み合わせたクイズみたいな勉強癖に抜け出すために、本来ならの外国語勉強の楽しさを体感して、将来的に自分が続いていける勉強方法に探すようという意識を目標とします。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトでは、どんな方法で英語が使えるようになるが実感と分析しながら、他人の感想も参考して、結論は演習中で自分が確認できることを重点に置く。




**授業計画**

1. オリエンテーション
2. 英語芝居の資料を指導する
3. 英語芝居の資料を指導する
4. 英語芝居の資料を指導する
5. 英語芝居の練習と課題解決
6. 英語芝居の練習と課題解決
7. 英語芝居の練習と課題解決
8. 使える英語についての結論
9. 英語苦手意識についての結論
10. 流暢さ第一を鍛えるための意識
11. 総合的な感想
12. グループ発表と英語芝居の演習確認
13. 発表会の準備
14. 発表会前の確認
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

授業参加姿勢(60%)，成果発表会でのプレゼンテーション内容(30%)，
グループ活動への貢献度(10%)を総合的に評価します。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

英語芝居の練習

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　*CIRQUE DU FREAK*　by Darren Shan
**◆参考書：**　English Dictionary

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | グローバル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 中村　弘子 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　コミュニケーション力，コミュニケーション方略，リンガフランカ**

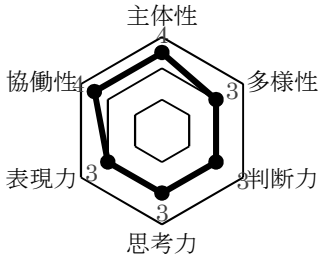
**＜テーマ＞　なぜ日本人は英語を話すことが苦手なのか？**

＜概要＞　2021 年大学入学共通テストへの「英語スピーキングテスト」の導入は見送られたが、日本人の英語スピーキング力はアジア圏では最下位という結果も報告されている。本プロジェクトでは日本人の英語スピーキング力について学び、考え、 問題点について調査・分析し、さらに改善策について考察し、成果物の発表を行う。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とする。

本プロジェクトでは、グループでリサーチした内容について各グループでクリティカルに分析することによって上記の能力の向上を図り、英語または日本語で原稿を用いず発表し、上記の各能力を各自が強化することを達成目標とする。




**授業計画**

1. オリエンテーション・グループ分け
   グループワークの割り当て
2. グループ・ワーク(1)：第１講、第２講
3. グループ・ワーク(2)：第３講、第４講
4. グループ・ワーク(3)：第５講、第６講
5. グループ・ワーク(4)：第７講、質問紙調査の手順
6. 質問紙の作成
7. データの分析
8. 調査結果の報告
9. グループ発表準備
10. グループ発表準備
11. グループ発表(1)
12. グループ発表(2)
13. グループ発表(3)
14. 発表練習
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

授業での取り組み、グループワーク、グループ発表での貢献度等を総合的に評価する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

グループ発表のための準備のほとんどは講義外になる。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | | ● | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　鳥飼玖美子「話すための英語力」講談社現代新書

**◆参考書：**

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | グローバル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 柚洞　一央 | | | | | | | | |

**授業の概要**

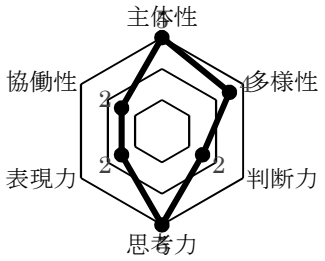
**キーワード：　地理的見方・考え方、現地で現象を探す**

**＜テーマ＞　　鳥取でグローバル社会を考える**

＜概要＞
鳥取という日本の地方都市にもグローバル化の波が押し寄せています。本プロジェクト研究では意外なグローバル化の現象をみなさんに見つけてもらいます。現地での聞き取り調査を重視しながら鳥取という地域社会の見えざる実情に迫ります。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。
本プロジェクトでは、主体性と思考力の向上に重きを置きます。地理学が得意とする現場で考える作業を重視します。




**授業計画**

1. 地理的な見方・考え方とはなにか
2. 地域社会で起きていることをどのように把握するのか
3. 主体的・対話的で深い学びとは
4. 地図で考える
5. 仮説を立てる①
6. 仮説を立てる②
7. 仮説を立てる③
8. 仮説の共有―みんなで考える①
9. 仮説の共有―みんなで考える②
10. 困ったときは「助けて」と主張する①
11. 困ったときは「助けて」と主張する②
12. 調べてわかったことを相手に伝わるように表現する①
13. 調べてわかったことを相手に伝わるように表現する②
14. 調べてわかったことを相手に伝わるように表現する③
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | | ● | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | ● | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

最終成果物の内容を中心に評価します

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | ● | | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

授業内での作業だけでなく各自の興味関心にあわせて独自に調査探求をすること

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | | ● | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**
**◆参考書：**

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | グローバル |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 吉田　聡　（専任） | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　プロジェクト、情報・認識の共有、文献講読**

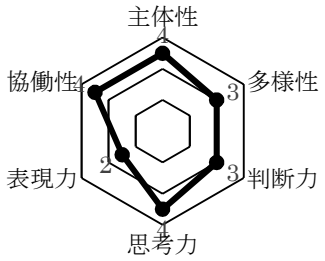
**＜テーマ＞　　ニュージーランドの算数教科書を読む**

＜概要＞　ニュージーランドの小学校課程相当の算数教科書の原書を用いて、ニュージーランドの算数教育を考察します。著者の意図やニュージーランド算数教育の背景を読み解くこと、教師の視点からの学習方法の検討などを 3～4 人のチームで行い、プロジェクト、情報・認識の共有、文献講読を実践的に学びます。

**到達目標**

プロジェクト研究 2 では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトでは、主体性、思考力、協働性を始めとして、自らの力で課題を理解し解決するために必要な 6 つの能力の向上を、右のグラフが示す優先度で進めて行きます。




**授業計画**

1. 第１期・準備：本プロジェクトの説明、評価の説明、輪講担当割り当て
2. 第１期・準備：文献講読（統計教育、数学教育、算数授業研究）
3. 第１期・準備：文献講読、輪講の練習（担当教員による発表）
4. 第２期・輪講：各参加者が事前にニュージーランドの算数教科書を検討し、発表していきます。また、自己紹介も行います。
5. 第２期・輪講：前回の続き
6. 第２期・輪講：前回の続き。
7. 第２期・輪講：前回の続き。
8. 第３期・チーム活動：各チーム 3～4 名程度に編成します。その中でニュージーランド算数教科書を輪講して行きます。
9. 第３期・チーム活動：前回の続き
10. 第３期・チーム活動：前回の続き。
11. 第３期・チーム活動：前回の続き。
12. 第３期・チーム活動：チームごとに発表準備を行います。
13. 第３期・チーム活動：前回の続き。
14. 第３期・チーム活動：内部発表会。
15. プロジェクト研究発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

週報（50%）、レポート（30%）、発表内容（20%）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | | ● | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

講義時間はチームでの打合せや議論が活動の中心となるので、文献調査やレポート作成などの個人活動は講義時間外に行うようにして下さい。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | | | ● | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | | ● | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　資料を配布する。
**◆参考書：**　適宜紹介する。

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | 一般 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 磯野　誠 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　マーケティング、プロモーション、デザイン**

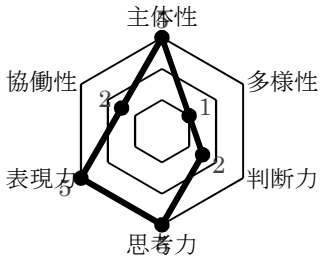
**＜テーマ＞　　とっとりメモリープロモーション**

＜概要＞　磯野ゼミで管理運営しているイラストみやげブランド「とっとりメモリー」について、その顧客魅力と売上拡大を狙い、プロモーション計画を立て、実行する。その過程で、マーケティング、プロモーション、デザインの基礎を実践的に学ぶ。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトでは、特に表現力、思考力、主体性に焦点を置く。




**授業計画**

1. イントロダクション：プロジェクトの概要
2. マーケティングの基礎、プロモーション
3. クリエイティブブリーフ作成・修正
4. クリエイティブブリーフレビュー・確定
5. プロモーション案レビュー（１）
6. プロモーション案修正（１）
7. プロモーション案レビュー（２）
8. プロモーション案修正（２）
9. プロモーション案レビュー（３）
10. プロモーション案修正
11. プロモーション案レビュー・確定
12. プロモーション実施（１）
13. プロモーション実施（２）
14. プレゼンテーション準備
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | ● | | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

ディスカッションへの積極性（50%）、成果物のクオリティ（50%）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

課題に取り組み、次回に提出する。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | | | ● | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　特に指定しない

**◆参考書：**　倉持・他（2019）「地域創生のための経営学入門」今井出版

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマ<br>カテゴリ | 一般 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 人間形成教育センター 准教授 市丸夏樹（専任） | | | | | | | | |

**授業の概要**

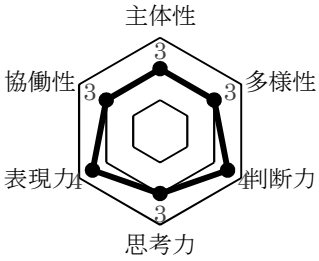
**キーワード：　人工知能、ニューラルネットワーク、自然言語処理、大規模言語モデル、**

**＜テーマ＞　生成 AI について考える。**

＜概要＞　クラウドコンピューティング基盤上で動作する生成 AI サービスによって、人類念願の夢であった自自然言語による機械との自由な対話がついに実現され、昨年末の一般公開以来世界中で人気を厚め、今現在も毎日ニュース番組で取り上げられる程の話題となっています。
このテーマではその生成 AI の仕組みと問題点等について学び、様々な種類の生成 AI システムを実際に使ってみた上で、正しい有効活用法を探るとともに、AI と共生する未来社会のありかたについて考えていきます。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。プロジェクト２では特に、**考える**ことを重視します。本プロジェクトでは、班やグループ単位でのディスカッションで多様性や共労性を育くむとともに、強力な生成 AI の力も借りながら、主体的に調査研究活動を行うことで思考力・判断力を鍛えます。




より具体的には、AI を正しく使いこなす指示書(プロンプト)作成の基本技術と倫理観（つまり AI リテラシー)の育成を目指します。
そして最後に、発表スライド作成や２度の発表練習によって実践的な表現力を磨きます。

**授業計画**

1.イントロダクション。テーマ説明、ミニレク「文献調査の方法」
2.サブテーマ検討、自己紹介、
3.サブテーマ決め、班分け、
4.11 月の研究計画立案、役割分担、サブテーマ説明スライド作成。
5.中間発表会
6,7,8,9.班活動(1,2,3,4)
10.研究成果発表スライド作成
11.発表練習（リハーサル）、
12.ミニレク「わかりやすいスライドの作成」、スライドの修正。
13. ディスカッション結論と研究目的と概要をどうするか？
14.　Web 資料、成果物のとりまとめと公開。
15. プロジェクト研究発表会本番。レポート提出。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | ● | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

成果物等のフォーラム投稿と各班内の役割分担に応じた貢献度によって評価する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

空き時間に随時情報メディアセンター等の図書館へ足を運ぶこと。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**
パソコンが配布されて以降は、毎回パソコンを持参すること。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | | ● | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　適宜プリントや pdf ファイルを配布します。
**◆参考書：**　清水亮「教養としての生成 AI」(桃源社新書)などの kindle 版電子本。

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマ<br>カテゴリ | 一般 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 今井　正和 | | | | | | | | |

**授業の概要**

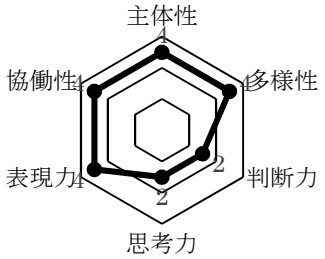
**キーワード：　クレイメーション、発想力、計画立案力、進捗管理**

**＜テーマ＞　　クレイメーションを作ろう**

＜概要＞
１年生と２年生が協働してクレイメーションを制作する際に経験する様々な問題を解決することで、問題解決能力だけでなく学ぶことに必要な能力、社会に出て活動するために必要となる能力を身につけます。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。
本プロジェクトでは、グループでのクレイメーション制作を通じて、映像内容の考案、制作工程の計画立案、進捗管理、活動の振り返りなど行います。これにより、先の６つの能力を身につけ、自らの力で何か一つのことをやり遂げられるようになることを目標とします。




**授業計画**

１．　オリエンテーション、自己紹介、グループ編成
２．　全体スケジュールの策定とあらすじの立案
３．　あらすじの立案（１）
４．　あらすじの立案（２）
５．　中間発表（１）
６．　制作と撮影（１）
７．　制作と撮影（２）
８．　制作と撮影（３）
９．　制作と撮影（４）
１０．制作と撮影（５）
１１．中間発表（２）
１２．映像編集（１）
１３．映像編集（２）
１４．活動の振り返りと発表準備
１５．発表会

進捗状況により具体的な内容は適宜変更されるので、注意してください。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | | ● | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

授業支援システムを用いた毎回の進捗報告を３段階評価し、中間発表２回（１０％×２）と発表会レポート（３５％）も合わせて総合的に評価します。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | | | ● | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　　指定なし
**◆参考書：**　　指定なし

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマ<br>カテゴリ | 一般 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 久保　奨（専任） | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　文献調査、輪講、グループ活動**

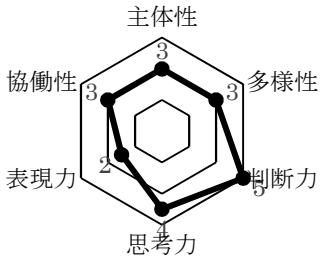
**＜テーマ＞　ちゃんと調べてみる**

＜概要＞　世の中には、様々な怪しい情報が飛び交っています。例えば、新型コロナワクチンについては、「接種が不妊症の原因になる」「接種で感染する」などと言われたりします。本プロジェクトでは、調べ方を学んだ上で、グループに分かれて自分達が気になるそうした情報について、実際にはどうなのかを調べてみます。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトでは、調べて結論を導く過程を通じて、特に判断力や思考力を身につけることを目標とします。




**授業計画**

1. 導入：プロジェクトの説明、自己紹介
2. 輪講の練習、気になる情報の共有
3. 輪講１（調べることで目指すもの）
4. 輪講２（雑誌記事・論文を調べる等）
5. 輪講３（統計を調べる等）
6. グループ活動１（調べるテーマ決め）
7. グループ活動２（テーマに係る背景の調査）
8. グループ活動３（テーマ自体の調査）
9. グループ活動４（同上）
10. グループ活動５（同上）
11. グループ活動６（調査結果の取りまとめ）
12. グループ活動７（発表資料の作成）
13. 内部発表会
14. グループ活動８（発表会の最終準備）
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | | ● | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

発表会の内容（40%）、輪講での発表内容（30%）、
グループ内メンバー間の相互評価（20%）、各回での活動状況（10%）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

文献調査、発表資料の作成等

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | | | ● | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　なし
**◆参考書：**　宮内泰介、上田昌文「実践 自分で調べる技術」岩波書店

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマ<br>カテゴリ | 一般 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 重田　祥範（専任） | | | | | | | | |

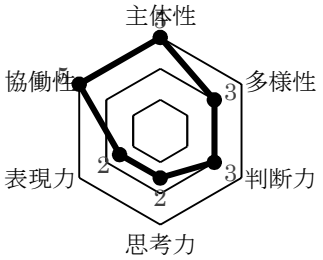
**授業の概要**

**キーワード：** 健康気象，バイタルサイン，足湯

＜テーマ＞　IoT 技術を駆使した足湯の健康増進効果プロジェクト A
＜概要＞　鳥取県東部には，5 大温泉（岩井・鳥取・吉岡・浜村・鹿野）など数多くの温泉が湧き出ている．温泉街に設けられている足湯は，手軽に楽しめるほか，自律神経を整える効果や入眠促進効果があると期待されている．そこで，本プロジェクトでは，日ごろの暮らしでストレスの溜まった心を癒す「足湯セラピー」にチャレンジする．実験では，鳥取県内の温泉地を巡り，近年技術発展の目覚ましい IoT デバイスを駆使しながら，客観的な数値を用いた温泉の療法効果について検証する．

**到達目標**

ウェアラブル心拍センサによる自律神経や活動量の計測をおこない，足湯中のバイタルサイン変化を把握する．温泉街の環境を情報，生理学的な面からアプローチすることによって，環境について幅広く捉えることができるようになる．また，数値の分析力についても身につけることができる．さらに，分析結果を活用することにより，温泉地における観光振興の在り方についても検討する．本プロジェクトは，特に主体性，協働性の 2 つの能力を重要視する．




**授業計画**

第 1 回：ガイダンス（プロジェクト研究の概要説明）
第 2 回：足湯とは？（健康増進効果）
第 3 回：研究計画の立案 ①
第 4 回：研究計画の立案 ②
第 5 回：
第 6 回：
第 7 回：　足湯セラピー（鳥取県内の温泉地）
第 8 回：
第 9 回：
第 10 回：試料整理
第 11 回：データ分析①
第 12 回：データ分析②
第 13 回：発表準備 ①
第 14 回：発表準備 ②
第 15 回：研究発表会
※プロジェクト研究 4 と合同で実施する．

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | | ● | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | ● | | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | ● | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

レポートならびに自然観察に対する取り組み方で評価する．

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回，または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

授業外学修として，レポートの提出を求めることがある．

**履修上の注意事項**

フィールドワークと研究発表会に参加することを単位取得の必要条件とする．

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | | ● | | 他の曜日の集合あり |

**教材**

**◆教科書：**　なし
**◆参考書：**　適宜プリント等を配布する．

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | 一般 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 竹内由佳 | | | | | | | | |

**授業の概要**

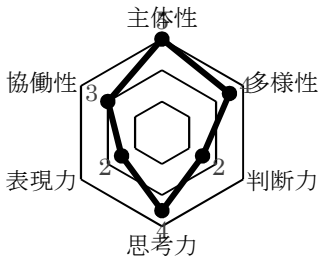
**キーワード：** マーケティング，プロモーション，社会学

＜テーマ＞　**帰ってきた　こちら TUES TV！！**

＜概要＞皆さんは，環大のことは好きですか？…では次！皆さんは、この環大のいいところを知っていますか？そして、それを説明することはできますか？実は…私は何年か前、オープン・キャンパス用の環大の PR 動画作成を学生さん有志と行っておりましたが…「もっと人数がいたら」「もっとアイデアがもらえたら」と…なんというか、軽く限界を感じて燃え尽きちゃいそうでした。そんな中、何度かこのプロ研で素敵なアイデアをいただきました！動画に関して、今期久しぶりに皆さんの軟体動物並みの柔軟過ぎるアイデアを募ります！どのような動画を作ったらより上手に、素敵に、正しく、環大や鳥取の魅力を多くの高校生さんやその保護者に伝えることが出来るかという、短い番組構成を考えた後に、動画に必要な絵（映像）の撮影を行っていきます！

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。本プロジェクトでは、特に、「多様性」「思考力」「主体性」を重視します。グループワークにおいて、他の意見も入れながら（多様性）自分なりに筋道を立て（思考力）、自ら様々な情報を仕入れたうえで分析する（主体性）ことを意識してください。




**授業計画**

1. ガイダンス、自己紹介、アイスブレイキング
2. 昨年までの動画の鑑賞＆ディスカッション
3. 問題設定①　グループ作り，グループ内で議論
4. 問題設定②　グループ内で議論
5. 調査・撮影①
6. 調査・撮影②
7. 第１回目報告（どんな問題を設定したのかを報告，質疑応答）
8. 調査・撮影③
9. 調査・撮影④
10. 調査・撮影⑤
11. 調査・撮影⑥
12. 第２回目報告（設定した問題についての調査結果報告，質疑応答）
13. 発表会向けの資料作り①
14. 発表会向けの資料作り②
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | | ● | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

講義内での報告内容（50%）、成果（50%）で判断。なお，成果とは最終成果物だけでなく，それまでに使用・作成したすべての資料を指します。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

問題を設定する際や分析する際には柔軟な考え方といろいろな分析視点が必要となるので、とにかく「こんなのいらないんじゃない？」と思うような情報でも目に入れて自分の武器にするようにしてください。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | | | ● | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | | ● | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　特になし。
**◆参考書：**　適宜指定します。

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマ<br>カテゴリ | 一般 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 戸苅　丈仁（専任） | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　物理学，スポーツ科学，テニス**

**＜テーマ＞　　テニスの科学**

＜概要＞

　伊達公子，錦織圭，大阪なおみなどの世界レベルのテニス選手の登場により，日本の中でのテニス人気が高まっています．本プロジェクト研究では，テニスに関する研究課題について，科学的な視点から解明に取り組みます．今回のプロジェクト研究ではテニスに関する課題を設定し，実験研究に取り組む中で，「研究」のプロセスを理解してもらいます．

(EX)

・テニスラケットの形状（フレーム厚，面形状，面の大きさ）と各ショットへの影響

・テニスラケットの重さ・バランス・スイングウェイトと各ショットへの影響

**到達目標**

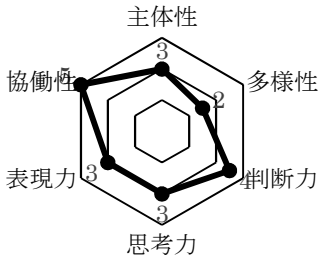
　プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

　本プロジェクトでは、特に下記の３点ににについて重視します。

① グループでの共同作業を効率よく行う協働性

② 問題点を科学的に調査・分析し解決する思考力

調査結果を的確に伝える表現力




**授業計画**

授業計画

1.プロジェクトの概要説明、ガイダンス

2.テニスについての基礎的知識

3.班分けおよび課題分担の決定

4～8.調査、情報収集

9. 中間報告

10～13. 調査，分析

14. 発表練習

15. 発表会

・テニスというスポーツを科学的に考えるテーマですので，特にテニスの経験者である必要はありません．

・調査テーマ，実験計画は各班で決定してもらいます．

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

最終の成果物と発表内容により評価

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | ● | | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

既往報告の調査やテニスについての知識習得が必要

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　適宜資料配布

**◆参考書：**　適宜資料配布

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | 一般 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 西村　教子 | | | | | | | | |

**授業の概要**

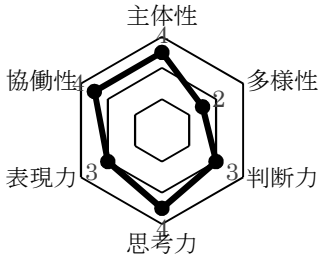
**キーワード：　生活環境、地域社会、人口減少**

**＜テーマ＞　あなたのまちはどんなまちか？**

＜概要＞
みなさんがこれまで暮らしてきた「まち」はどんなまちでしたか？このプロジェクト研究では、みなさんの出身地を様々な視点からまちを比較して、まちの特徴や課題などを考えていきます。
授業は統計 dashboard や地域経済分析システム(RESAS)などを用いながら情報収集やデータの読み方についても学んでいきます。

**到達目標**

思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。
本プロジェクトでは、主体的に取り組む姿勢と思考力を身に着けること、特に積極的にグループで研究を進めていく協働性を重視します。




**授業計画**

1. オリエンテーション
2. 人口減少社会が意味する日本や地域の社会経済に及ぼす影響
3. まちの特徴を調べる：人口
4. まちの特徴を調べる：産業
5. まちの特徴を調べる：隣接地域との比較
6. グループテーマ、グループの決定
7. まちの調査１
8. まちの調査２
9. まちの調査３
10. まちの調査４
11. 考察・まとめ１
12. 考察・まとめ２
13. 発表会準備
14. 発表会準備
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | | ● | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | | ● | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

授業の参画度(①課題の取り組み、②授業時間内の発言等の参加、③グループ活動の参加)から総合的に判断する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

授業時間は進捗報告などの時間に用います。
そのため、調査やグループ活動の多くは時間外となります。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**
演習授業です。必ず出席してください。(正当な理由による欠席を除く)

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | | ● | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | ● | | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**
**◆参考書：**

| 科　目　名 | プロジェクト研究２ | | | | | | | テーマカテゴリ | 一般 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目区分 | 総合演習 | 履修区分 | 必修 | 配当年次 | 1 | 単位数 | 2 | 開講区分 | 後期 |
| 教　員　名 | 山口　和宏 | | | | | | | | |

**授業の概要**

**キーワード：　農業従事者の減少・高齢化、スマート農業、農業の未来**

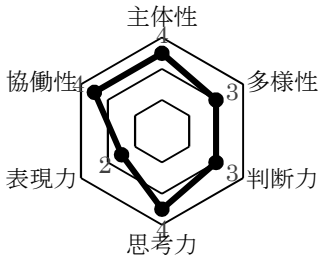
**＜テーマ＞　　鳥取県の農業生産の未来を考える**

＜概要＞　食料生産を担う重要な産業でありながら、日本の農業は厳しい状況にあると言われています。そのような中、農業の抱える課題を解決するべく、日本各地で様々な取組みが試行錯誤されています。果たして、これらの取組みは鳥取県の農業の救世主となりえるのでしょうか。鳥取県の農業生産の未来を考えていきます。

**到達目標**

プロジェクト研究１～４では、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性の６つの能力を身につけることを目標とします。

本プロジェクトでは、スマート農業を対象としたグループ研究を行う中で特に、物事の側面にある多様な考えを理解しまとめる思考力、自らの意見を創り出す主体性、他者と協力して物事を進める協働性を身に付けることを目指す。




**授業計画**

下記の講義計画で進めていく予定であるが、必要に応じて変更する場合もありうる。

1. ガイダンス（自己紹介・テーマの概要と講義の進め方の説明）
2. 日本におけるスマート農業技術に関するディスカッションとグループ分け
3. グループにおける研究テーマの選定
4. グループにおける研究計画の策定
5. グループでの研究活動①
6. グループでの研究活動②
7. グループでの研究活動③
8. グループでの研究活動④（研究・調査結果の中間とりまとめ）
9. 研究結果の中間発表・意見交換・今後の研究活動の打ち合わせ
10. グループでの研究活動⑤
11. グループでの研究活動⑥
12. グループでの研究活動⑦（発表会に向けた資料作成）
13. 発表会に向けた予行練習・質疑応答
14. 発表会資料の修正・Web 登録の実施
15. 発表会

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 教員による計画・方針・意向を重視 | | ● | | 学生の自発的な計画・方針・意向を重視 |
| 教員と学生の双方向性を重視 | | | ● | 学生同士の双方向性を重視 |
| 個人による単独活動を許容 | | ● | | ２人以上のグループ活動が必須 |

**評価方法**

ディスカッションやグループ活動への参加状況（30%）、講義内での中間発表（30%）、発表会での最終成果（40%）で評価する。

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 最終成果物の完成を重視 | | ● | | 各回、または複数回ごとの成果を重視 |

**講義外での学習**

グループごとの打ち合わせや報告資料の準備、個人での情報収集や研究が必要となる。

**履修上の注意事項**

**原則として、３分の２以上の出席と発表会に参加することを単位取得の必要条件とする。**

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 学内 Web・発表会用プレゼンのみ作成 | ● | | | 他にも何らかの成果物を作成 |
| 学外フィールドに出る | | ● | | 学内で活動 |
| 時間割通りの実施 | | ● | | 他の曜日の集合あり |

**教　材**

**◆教科書：**　特になし

**◆参考書：**　必要に応じて、適宜紹介する